

画像①
能人形 牛若・熊坂
森川杜園作
明治時代・19世紀
東京国立博物館蔵
Image: TNM Image
Archives



特別展

生誕 200 周年記念 森川杜園展

2021年9月23日(木・祝)－11月14日(日)

The 200th Anniversary of His Birth MORIKAWA Toen

幕末から明治へ―激動の奈良を生きた無二の異才、森川杜園。

その妙技と芸術の全貌に迫る。

展覧会の趣旨

森川杜園（もりかわとえん 1820-1894）は、幕末から明治という時代の変革期に、奈良人形（一刀彫）の制作を軸に活躍した奈良の彫工です。古都・奈良の風雅な趣の伝統美を造形上の理想に掲げ、鋭い刀法と高度な彩色技術を用いてこれを制作しました。その卓越した技術と豊かな造形性は、単なる職工の域にとどまらない優れた芸術性を示すものとして、竹内久一や平櫛田中といった後世の彫刻家から高く評価されています。

森川杜園（幼名・友吉）は、文政3年（1820）現在の奈良県奈良市で生まれました。13歳の頃から興福寺終南院の代官で四条派の画風で知られる内藤其淵に絵を学び、その画技を認められて当時の奈良奉行から扶疏（ともしげ）の名と杜園の号を与えられました。また、この頃より学んだ狂言では、大蔵（山田）八右衛門の名跡を継ぎ、大蔵流狂言師山田弥兵衛を襲名するほどの名手となりました。

一方同時期、漆芸家で画家の柴田是真のすすめにより奈良人形（一刀彫）の制作を開始します。奈良人形は、春日大社の摂社・春日若宮の祭礼で用いられる花笠や島台の装飾に淵源を持つと伝わる奈良の伝統工芸で、面と稜線を生かした簡素な形態の木彫りの人形です。杜園は、元禄期以来の伝統を継ぐ岡野松寿の作品に学びながらも、写生を踏まえた豊かな表現と極彩色を特徴とする華麗な作風で、これを芸術の域にまで高めました。

また、幕末には「春日若宮大宿所神前絵師」や「春日有職奈良人形師」と称して、独特の鹿彫や、能や狂言を題材とする奈良人形を制作する一方、維新後の神仏判然令に端を発した廃仏毀釈の混乱を経て、政府の古器旧物（文化財）保護活動や、奈良県の振興を目的とする奈良博覧会社の事業に携わり、正倉院宝物や県下の名宝の模写・模造の制作に取り組みました。杜園の妙技が発揮されたこれら後年の作品は、内国勸業博覧会（第1、2、3回展）やシカゴ万国博覧会で受賞を重ね、日本の彫刻史に確かな足跡を残すこととなりました。

このように杜園は、奈良人形（一刀彫）中興の祖として位置づけられると同時に、日本近代彫刻の先駆的存在として近年見直されつつあります。杜園の生誕 200 周年を記念する本展は、杜園芸術の全貌を紹介しようとするもので、その意義と特質を改めて検証する機会とします。

なお本展では、「令和 3 年度国立博物館貸与促進事業」を活用し、国立博物館が所蔵する森川杜園の代表作などを借用し、公開いたします。

出品件数（予定） 約 200 点（出品点数の合計） ※そのうち国立博物館貸与促進事業による出品 24 件

展示構成

1. 奈良人形（一刀彫）
…出世作となった「後高砂」をはじめとする奈良人形、センスと技が光る根付や香合などの細工物、春日信仰のもと独自の境地を拓いた鹿彫の 3 つのテーマで展示。単なる職工の域にとどまらない表現力豊かな杜園芸術の魅力を紹介いたします。
2. 書画・関連資料
…四条派に学んだ杜園の絵画作品や、国学者たちとの交流を示す書跡類などの関連資料を展示。杜園の木彫制作を支えた絵師としての素養や、古都・奈良の伝統美を芸術上の理想に掲げる杜園の復古的・尚古的芸術観を育んだ歴史的・文化的背景を探ります。
3. 模写・模造
…明治政府の文化財政策や奈良博覧会社の事業の一環として取り組んだ、正倉院宝物をはじめとする県下の名宝の模写・模造作品を中心に展示。杜園の卓越した彫技と高度な彩色技術が発揮されたもう一つの名宝を堪能します。
4. 杜園とその周辺
…柴田是真や高村光雲、竹内久一、石川光明、平櫛田中、加納鉄哉など、杜園と交流のあった彫工たちの作品を展示。彫刻・工芸といった分類が未だ不明にであった明治期の立体造形が持つ多様性を概観すると同時に、日本近代彫刻史における杜園の位置づけを再考します。

本展のみどころ

1. 絵師・彫師・狂言師として、幕末から明治という激動の時代を生き抜いた、奈良の異才・森川杜園の足跡を、およそ 200 点の作品とともに振り返ります。
2. 愛らしい鹿の群れに、軽妙洒脱な奈良人形、そして超絶技巧が冴えわたる名宝の模写・模造作品など、知られざる杜園の名品が一堂に会します。
3. 簡素な造形に華やかな彩色を施した、素朴で風雅な大和の美・奈良人形（一刀彫）の魅力をご堪能いただけます。

▼展覧会の基本情報と来館案内

主催・会場

奈良県立美術館
〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 10-6
TEL 0742-23-3968 / FAX 0742-22-7032 / テレホンサービス 0742-23-1700
公式ホームページ <http://www.pref.nara.jp/11842.htm>
ツイッター <https://twitter.com/ArtmuseumN>
フェイスブック <https://www.facebook.com/narakenmuseum>

会期

2021 年 9 月 23 日(木・祝) - 11 月 14 日(日)
※一部の作品は会期中に展示替えあり
(前期：9 月 23 日 - 10 月 17 日、後期：10 月 19 日 - 11 月 14 日)

特別協力

国立文化財機構文化財活用センター、東京国立博物館、奈良国立博物館

後援

NHK 奈良放送局、奈良テレビ放送株式会社、株式会社奈良新聞社、西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社、奈良交通株式会社、奈良県商工会議所連合会、奈良県商工会連合会、奈良県中小企業団体中央会、株式会社南都銀行、(一社)日本旅行業協会、(一社)全国旅行業協会奈良県支部、(一社)国際観光日本レストラン協会、(一財)奈良県ビジターズビューロー、(公社)奈良

	市観光協会、奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合
開館時間 休館日	9時～17時（入館は閉館の30分前まで） 月曜日（ただし11月1日と11月8日は開館）
観覧料	一般＝800円、大・高生＝600円、中・小生＝400円 *新型コロナウイルス感染症拡大防止のため団体料金の設定はございません。 *次の方は会期中無料でご観覧いただけます ①身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と介助の方1人 ②外国人観光客（長期滞在者・留学生を含む）と付添の観光ボランティアガイドの方
交通案内	近鉄・奈良駅 1番出口から奈良公園に向かって徒歩5分 JR・奈良駅 東口バス乗り場から奈良交通バスにて5分「県庁前」下車100メートル

▼同時開催または会期中の催し

同時開催：	<p>連携展示「なら工芸館リニューアル記念～なら工芸歳時記～」 8月にリニューアルしたなら工芸館の収藏品等を通じ、奈良の四季と工芸の美を紹介します。 また、連携企画として奈良一刀彫の実演展示を行います。 会場：当館1Fギャラリー ※観覧無料 企画：なら工芸館 お問い合わせ：なら工芸館 TEL0742-27-0033 ◆実演展示：10月2日（土）・3日（日）：本田晃 10月10日（日）・11月14日（日）：平井和希 いずれも13:00～16:30</p>
会期中の催し （当館主催事業）	<p>◆講演会「森川杜園とその芸術」（仮題） 講師：浅井允晶氏（堺女子短期大学名誉教授） 日時：10月31日（日）14時～（約90分） 場所：当館1Fレクチャールーム（定員30名・事前申込制）</p> <p>◆美術講座A「彫工から彫刻家へー森川杜園とその時代」（仮題） 講師：松川綾子（当館指導学芸員） 日時：10月10日（日）14時～（約90分） 場所：当館1Fレクチャールーム（定員30名・事前申込制）</p> <p>◆美術講座B「森川杜園とその前後ー江戸後期から明治時代の奈良人形師たち」（仮題） 講師：飯島礼子（当館主任学芸員） 日時：10月24日（日）14時～（約90分） 場所：当館1Fレクチャールーム（定員30名・事前申込制）</p> <p>◆当館学芸員によるギャラリートーク（作品解説） 日時：9月25日、10月16日、11月6日（いずれも土曜日）14時～</p> <p>※ご参加には観覧券が必要です。 ※講演会・美術講座は予約制です。聴講申し込み方法などは当館ホームページでご案内します。 ※新型コロナウイルス感染症の状況によってイベントの実施方法などを変更する場合があります。</p>

取材のご依頼
広報に関するお問い合わせ

奈良県立美術館（展覧会企画担当：指導学芸員 松川綾子、主任学芸員 飯島礼子）
〒630-8213 奈良市登大路町10-6
TEL 0742-23-3968 FAX 0742-22-7032

広報用画像リスト + 作品の一言解説

◇展覧会広報用に下記の画像を用意しております。ご希望の画像の番号（1～5）をお知らせください。

◇必ず下記の**キャプション**もご掲載ください。なおNo.2・3については**展示期間**も注記してください。

ただし、ルビ（ふりがな）を付ける・付けないの判断と西暦・和暦の選択は各メディアに委ねます。

◇掲載にあたり作品部分のトリミング、文字載せはご遠慮ください。

No.	画像	キャプション	一言解説	備考
1		能人形 牛若・熊坂 (のうにんぎょう うしわか・くまさか) 森川杜園 明治時代（19世紀） 東京国立博物館蔵 Image: TNM Image Archives	これぞ 奈良人形（一刀彫） 謡曲に登場する大盗賊「熊坂」(右)と小さくとも賢い「牛若丸」(左)を対比的に表現しています。華やかな彩色と量感豊かな造形表現が、杜園作品の魅力と特徴です。	
2		福の神 (ふくのかみ) 森川杜園 明治22年（1889） 個人蔵 ※WEB媒体に掲載される場合は、 画像にコピーガードをかけて下さい。	狂言師 杜園の本領発揮！ 狂言『福の神』に題材を取り、供えられた御酒に満足し、富貴になる心得を説いて舞う福の神の、笑みを湛えた表情や飄逸な佇まいを巧みに捉えた名品です。	前期展示 (9月23日～ 10月24日)
3		融 (とおる) 森川杜園 明治20年（1887） 公益財団法人 名勝依水園・寧楽美術館蔵 ※WEB媒体に掲載される場合は、 画像にコピーガードをかけて下さい。	木彫の美、幽玄の美 世阿弥の謡曲『融』の一場面から、秋の夜、廃墟と化した京都・河原の院に現れた左大臣源融の霊が、月明の下、かつての栄華を偲ばせるかのように風雅に舞う姿を表しています。	後期展示 (10月26日 ～11月14日)
4		御生玉伏白鹿座像 (おんいくたまふせはくろくぎぞう) 森川杜園 慶応2年（1866） 春日大社蔵	崇高なる神の使い—白鹿 ふくふくとしたこの白い鹿は、春日大社の摂社・若宮神社に奉納されたもの。腹部には、持つ人に長寿をもたらすという卵形の石「生玉」が納められています。	奈良市指定 文化財
5		観音菩薩立像（九面観音像） （模造） (かんのんぼざつりゅうぞう (くめんかんのんぞう)) (もぞう) 森川杜園 明治25年（1892） 東京国立博物館蔵 Image: TNM Image Archives	まさに神業！ 超絶技巧の世界 奈良・法隆寺の宝物《九面観音菩薩立像》の精巧な模造彫刻。模写・模造を得意とした杜園ですが、本作は、原宝物に勝るとも劣らない、卓越した彫技が発揮された究極の逸品です。	